

目標達成計画

作成日: 平成 24 年 4 月 10 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20 49	・入居者の安全に配慮し、支援員1名に対して入居者1名だけで外出するようになったため、個別の希望外出の回数が目標より少なくなっている。(年間目標回数180回に対し、133回)	入居者全員が月3回を目安に「個別の希望外出」を実施し、生活の活性化に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・外出先は入居者の方が希望するところへ行く。(家族、友人、知人との面会は継続して行う) ・外出回数目標を数値化し、達成のための意識づけをする。また、運営推進会議等で報告する。(24年度はのべ150回) ・日常会話の中から外出の希望を入居者に聞き取り、職員間で共有できるよう業務日誌に記録し、それを実現する ・総合センターの「月行事予定表」をグループホーム内に掲示して入居者に伝え、希望があれば参加する。 	12ヶ月
2	25	・足元が不安定で、転倒の危険性のある入居者が多い。	生活リハビリ、散歩、体操などに取り組み、筋力低下予防に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の家事(掃除、リネン交換、調理、食事の盛り付け、洗濯物干し等)による生活リハビリを実施する。 ・毎日①～③のいずれかの運動を継続して取り組む。 ①片道50m～100mまでの散歩 ②セラピストがモデルになっているビデオの体操 ③セラピストから勧められた運動(足挙げ左右10回ずつ、腿上げ 左右10回ずつ、踵を動かす運動30回を目安にする)を支援員がモデルになって行う。 ・運動量を数値化し、年4回を目安に評価する。 	12ヶ月
3	2(2)	・グループホームが丘の上にある立地条件により、地域の方が訪問することが少ないため、地域との触れ合いの機会を増やす必要がある。	ボランティアの受け入れや地域との交流の機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・地元のボランティア(お話隊、美容、お茶・お花等)との交流を勧める。 ・小学校の学習発表会の参加や図書館での紙芝居の読み聞かせ等、子供との交流を増やす。 ・五色・サルビアホールやひろいしの里にボランティアが訪問したときは、一緒に交流する。 	12か月
4	35	・火災や地震等の災害時に、地域との協力体制を得にくい。 ・災害時に備えてより多く、職員が訓練をする機会を設ける必要がある。	災害時に地域との連携が図れる体制を築き、職員個々の危機管理能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、火災発生時の対応について研修を実施する。 ・年間2回以上、地域住民や消防団、入居者の参加による防災訓練を実施する。 	6か月
5	33	・ターミナルケアについての仕組みができていない	ターミナルケアについて、職員間やご家族との意思統一を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアについてのマニュアルを作成する。 ・ターミナルケアについて、マニュアルを元に対象者のご家族に説明し、同意を得る。 	12か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。